



クラスターコアセミナー
免疫制御学セミナー

Institute for Genome Research, The University of Tokushima

エピジェネティック制御 —基礎から創薬へ—

仲野 徹 先生

大阪大学大学院 医学系研究科・教授

★★★★ 開始時刻変更★★★★

日時：2012年10月5日（金）17時～18時30分

場所：疾患プロテオゲノム研究センター・1F 交流ホール

エピジェネティック制御とは、塩基配列によらない遺伝子発現制御機構であり、DNA メチル化とヒストン修飾が、その分子基盤をなしている。細胞の分化過程というのは、エピジェネティックな状態が確立されていく過程そのものであり、また、がんや生活習慣病、精神疾患といった疾患の発症にもエピジェネティック制御が関与していることがわかってきている。

我々の研究室では、エピジェネティック状態が劇的に変化する、受精直後の初期胚におけるDNA脱メチル化制御 (Nakamura et al, *Nature Cell Biol* 2007, *Nature* 2012 など) と、雄性生殖細胞の発生における *de novo* DNA メチル化制御 (Kuramochi-Miyagawa et al, *Genes Dev* 2008, 2010 など) についての研究をおこなってきた。それらの研究成果を紹介しながら、エピジェネティック制御とは何か、どうして重要なのか、そして、これからどのように展開していくのかについて概説したい。

仲野徹先生は、現在は少し免疫学から離れておられますが、胎性幹細胞から血球系への分化誘導 (*Science* 1994, 1996) 等、血球系の分化について極めて先駆的な研究をされて来られました。今回は、発生・分化におけるエピジェネティック制御の基礎から、初期胚を用いた最新の研究成果 (*Nature* 2012) までご講演いただく予定です。本セミナーは、大学院医科学教育部特別講義、ならびに感染・免疫クラスターコアセミナーを兼ねています。多数のご来聴をお待ちしております。

問い合わせ先： 岡崎 拓 (疾患プロテオゲノム研究センター・ゲノム機能分野、633-9158)